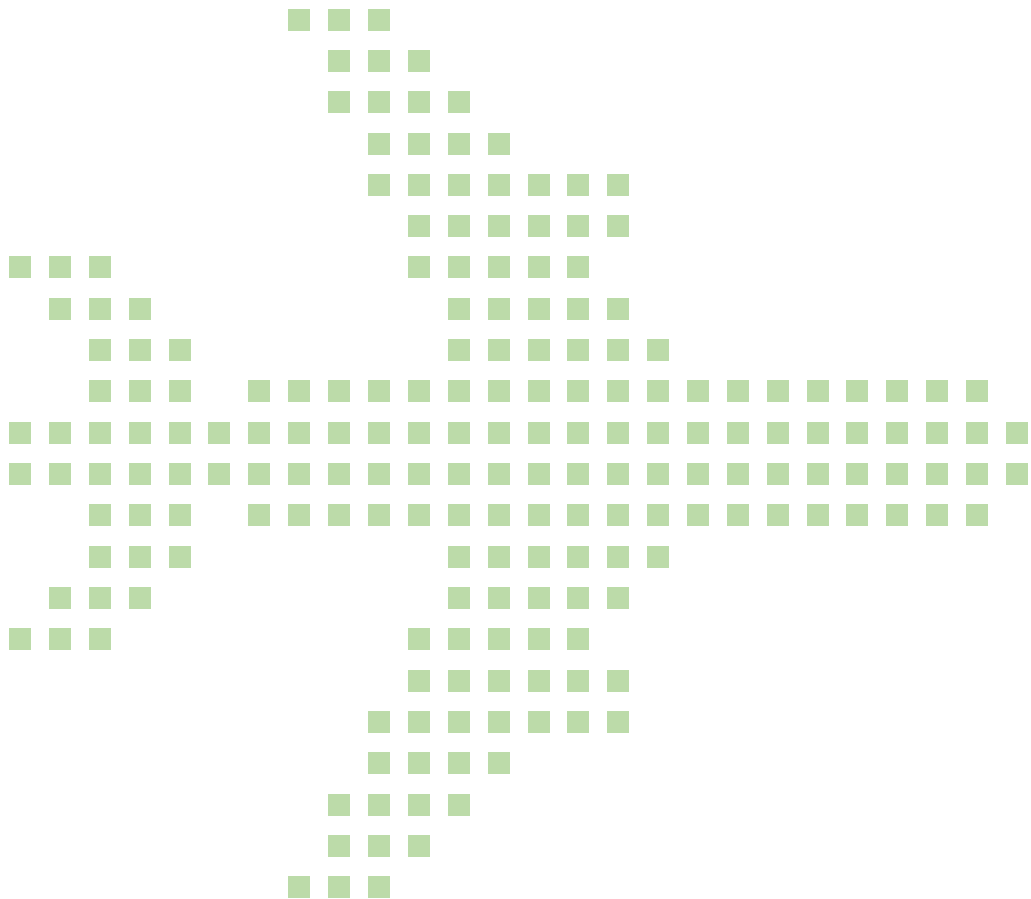


2

羽田空港の国際線増便の 必要性



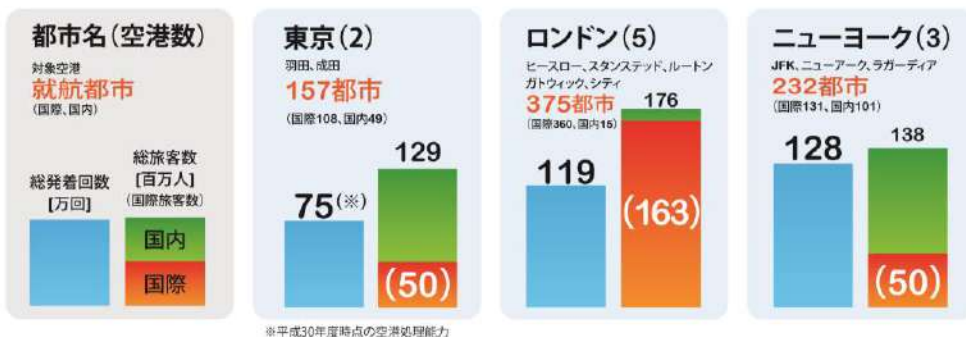
質問 なぜ羽田空港の国際線を増便する必要があるのですか。

- 人口減少や少子高齢化が進む中、日本の経済社会を維持・発展させていくためには、今後より一層諸外国との結びつきを深めていくことが重要です。

- 人口減少や少子高齢化が進む中、日本の経済社会を維持・発展させていくためには、今後より一層諸外国との結びつきを深めていくことが重要です。



- 世界の主要都市の空港と比較すると、羽田空港・成田空港を合わせても国際線の就航先が少ないのが現状です。また、香港、シンガポール、ソウルなどアジアの主要諸国よりも国際線の就航先数・利用客数ともに下回っています。



2019年のデータ(出展:ACI Annual World Airport Traffic Dataset,2019 Edition)

- 今後、世界的な航空需要は、アジア地域を中心に更に伸びると言われています。このような中で、羽田空港は、深夜・早朝の時間帯を除き、現在フル稼働しています。
- また、時差の影響により国際線の需要が一定の時間帯に集中する傾向があります。
- このような時間帯には、羽田空港のみならず、成田空港も既にフル稼働の状態にあり、成田空港と羽田空港の両方について、更なる国際線の増便のための方策を考えていく必要があります。

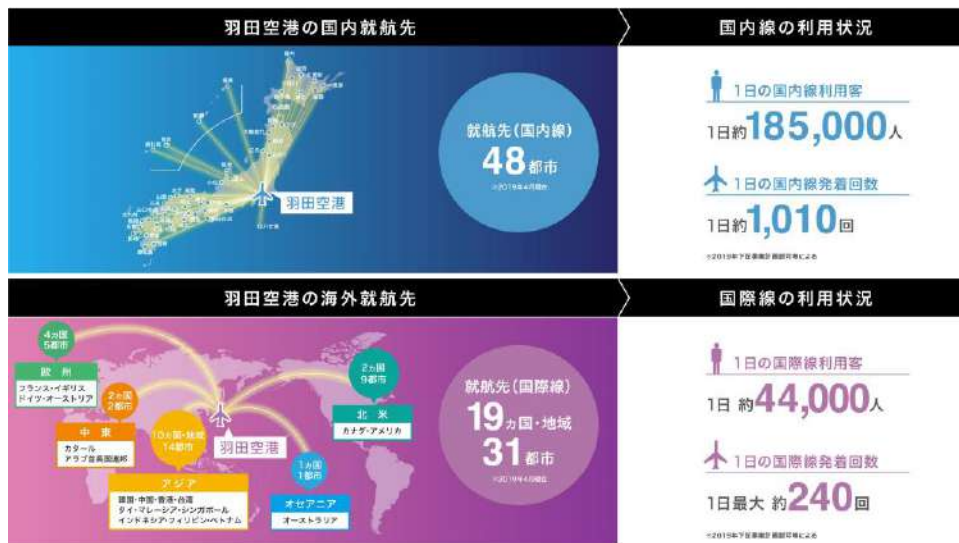


多くの航空機で混雑する羽田空港

- 日本の経済・社会にとって必要不可欠な羽田空港。
豊富な国内線との接続を通じて「地方と世界をつなぐ」という役割、
そして「都心から近く、24時間オープンしている」という強みを生かし、
首都圏や地方の成長・発展により大事な役割を果たしていきます。

○ 旅客ターミナルや滑走路の整備により、日本の経済・社会を支えてきた羽田空港。日本の成長、地域の発展に併せて、羽田空港も進化してきました。

- 国内外に豊富な路線を有する羽田空港は、首都圏と世界だけでなく、地方と世界もつないでいます。



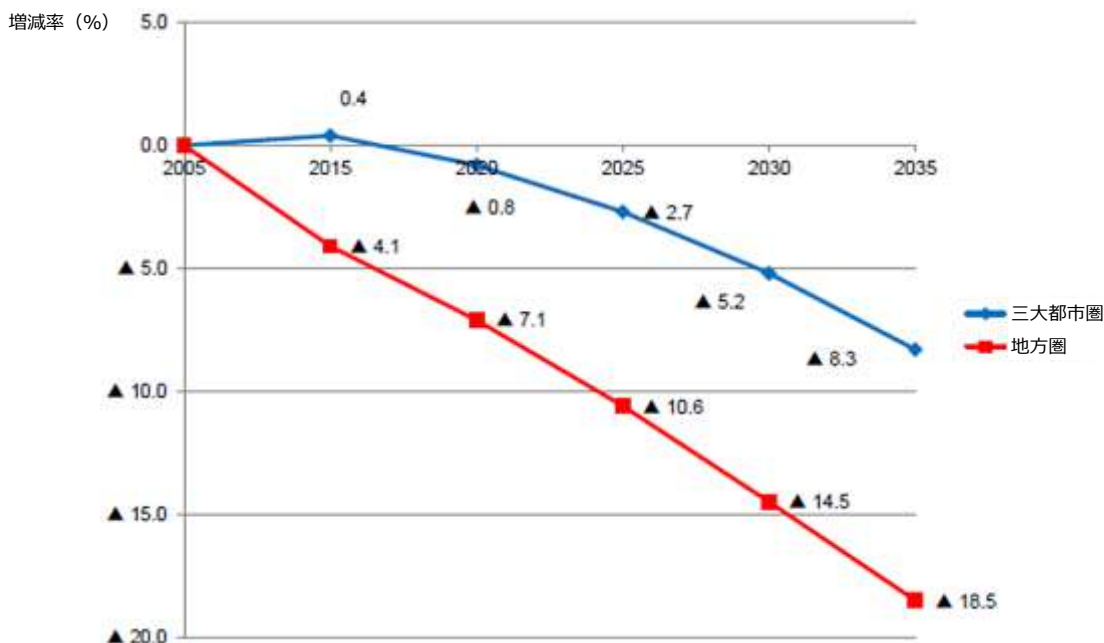
- 「都心から近く」「24時間オープンしている」という強みを生かし、ビジネスや観光をよりしやすい環境にしています。



Q1 外国との人の往来よりも、人口減少、少子高齢化そのものの対策に取り組むことが重要ではないですか。

- 人口減少社会にどう対応していくかといった視点を持ちながら、羽田空港の国際線の増便について更に議論を深めることは、大変重要なことと考えております。
- 人口減少、少子高齢化そのものについても政府を挙げて総合的な対策に全力で取り組んでいるところですが、国土交通省としては、そのような時代だからこそ、課題に打ち克つための方策の一環として、羽田空港を軸とした航空ネットワークの充実を通じ、海外との結びつきを深めることが大事だと考えます。
- 今後、より一層、都心に近く24時間オープンしている羽田空港の機能強化をはじめとして航空ネットワークの充実を図り、首都圏と世界との間で人やもの、海外との結びつきを増やすことが、将来の雇用や経済を持続可能なものとし、優れた知恵や人が集う国際都市の形成に貢献すると考えています。
- また、特に地方部では、人口減少、少子高齢化が急速に進んでいます。その傾向が著しい地方部では、都市間の格差が拡大し、海外との直行便を結ぶことができない状況にも直面しています。そのような地方こそ、羽田空港を通じて効率的に世界とつながることを必要としています（ハブ&ネットワーク）。
- 豊富な国内線との接続を通じ「地方と世界を結ぶ」という重要な役割を担う羽田空港だからこそ、将来のために国際線の増便が必要になると考えています。

三大都市圏と地方圏の人口増減率（推計）

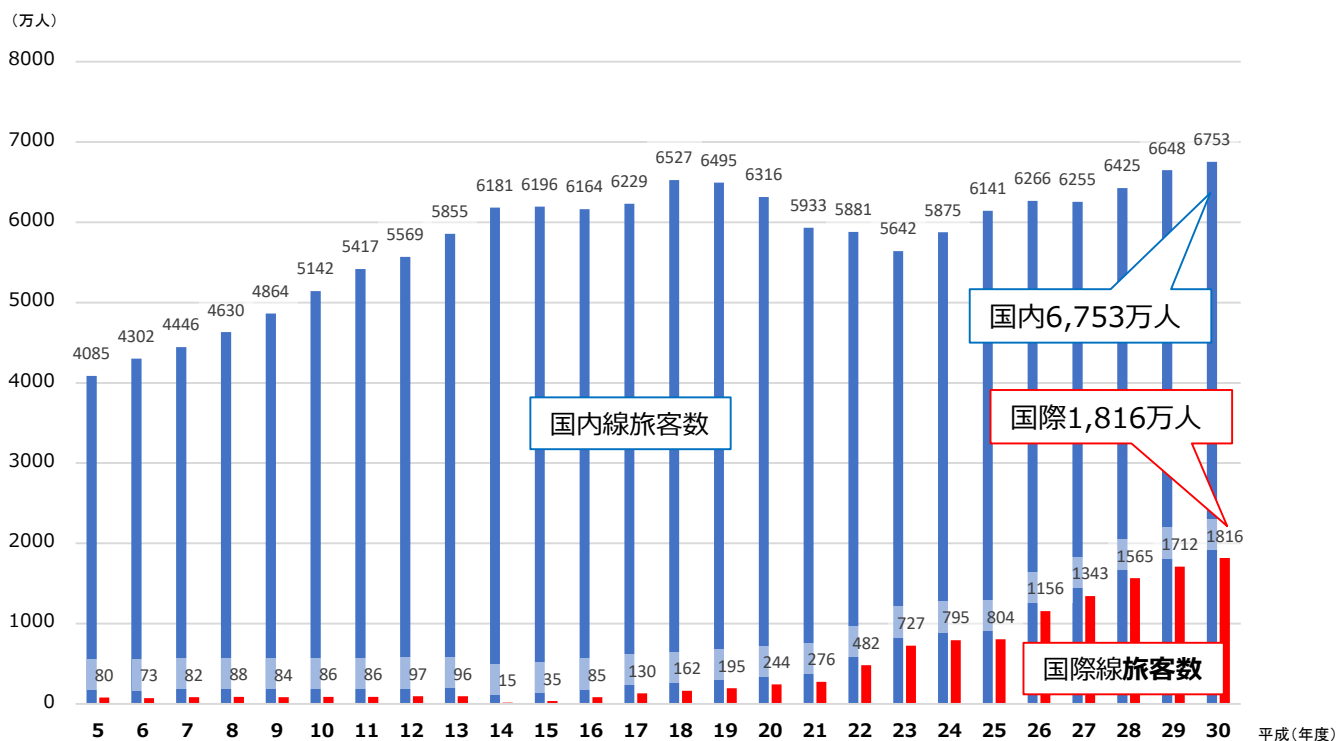


出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所
 「日本の都道府県別将来推計人口(平成19年5月推計)」により国土交通省作成
 三大都市圏：東京圏（埼玉・千葉・東京・神奈川）名古屋圏（岐阜・愛知・三重）関西圏（京都・大阪・兵庫・奈良）
 地方圏：三大都市圏以外

Q2 羽田空港の国内線の便数を減らすことで、国際線を増便すれば良いのではないですか。

- 羽田空港に就航する国内線については、非常に需要が高く、旅客数も伸びています。
- また、地方では、人口減少時代に立ち向かうため、羽田空港を通じ、首都圏や世界との結びつきを維持、強化することが必要となっています。具体的には、便数を維持・増加してほしい、運航を多頻度化し利用者サービスを向上してほしい、などネットワークの更なる充実を望む声が寄せられています。
- 国土交通省としては、羽田空港の国際線増便にあたり、首都圏の国際競争力の強化とともに、羽田空港の国内線で結ばれている地方に対しアジア諸国の成長力を地方のすみずみまで届け、地方を元気にしていくということが大変大切であると考えています。
- これらのことから、国内線の便数を減らすことで、国際線を増便することについては、慎重な検討が必要と考えています。

羽田空港の旅客数の推移



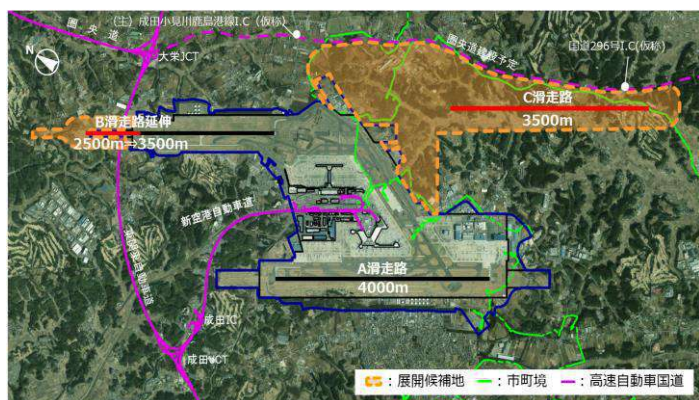
出典：国土交通省 年度別空港管理状況調書

Q3 成田空港をもっと活用できないのですか。

- 人口減少、少子高齢化が進む中、豊かな暮らしを子や孫の代に引き継ぐためには、今後より一層諸外国との結びつきを深めていくことが重要です。そのためには、羽田空港とともに成田空港も活用していく必要があり、両空港で国際線の増便が必要と考えています。
- 今後、世界的な航空需要は、アジア地域を中心に更に伸びると言われています。このような中で、羽田空港は、深夜・早朝の時間帯を除き、現在フル稼働しています。また、国際線の需要が集中する時間帯においては、成田空港においても、航空会社からの国際線就航の需要に応え切れていない状況にあります。
- 羽田空港は、国内線のメイン空港として「地方と世界を結ぶ」役割を果たすほか、「都心に近い24時間空港」としての利点を活かし首都圏に質の高いビジネスを呼び込む等の役割を果たします。一方、成田空港は、国際線のメイン空港として「国際線乗継を含むグローバル需要」や、今後増加する訪日外国人の受け入れ、低コストキャリアや貨物需要に対応していきます。
- このように、羽田空港と成田空港は、それぞれ他で代え難い重要な役割を果たしており、それぞれの役割や機能を最大限生かしながら、今後の首都圏の航空需要に対応していくことが必要と考えています。
- なお、成田空港も既に国際線のニーズが高い時間帯はフル稼働している状態にあることから、国際線の更なる増便に向けた2020年までの方策として、以下の取組を実施しています。また、2020年以降の方策として、B滑走路の延伸、C滑走路の新設等を進めることとしており、羽田空港とあわせて、世界最高水準の発着回数年間約100万回を達成していきます。

<成田空港の2020年に向けた主な処理能力拡大方策>

- ・ 管制機能の高度化WAM（管制機能の高度化に必要な監視装置）の導入
約2万回/年の発着回数の増加が可能……………2014年度末に導入済
- ・ 高速離脱誘導路の整備
約2万回/年の発着回数の増加が可能……………2019年度中の供用開始を目指し整備中



成田空港の更なる機能強化（B滑走路延伸、C滑走路新設）

Q4 周辺のその他の空港をもっと活用すればいいのではないですか。

- 茨城空港、静岡空港等の首都圏周辺のその他の空港も重要であり、これらの空港の活用にも取り組んでいきます。
- 他方で、これらの空港については、都心へのアクセスの改善（時間、運賃等）が課題となっており、アクセスに優れた羽田空港の国際線の増便が必要であると考えています。

Q5 羽田空港の国際線増便について、これまでどのような検討が行われてきたのですか。

- 交通政策審議会航空分科会基本政策部会において、羽田・成田両空港の今後のあり方について議論を行い、平成25年9月に両空港の更なる機能強化に向けて、具体的な方策の検討に着手することを決定しました。
- これを受け、同年11月に学者・専門家で構成する首都圏空港機能強化技術検討小委員会を設置し、羽田・成田両空港の機能強化策について技術的な検討を行いました。
- 平成26年7月に、これまでの議論の中間的な取りまとめとして、羽田空港の飛行経路の見直しを含む機能強化策を発表しました。

首都圏空港機能強化技術検討小委員会の中間取りまとめ（平成26年7月）をふまえた今後の首都圏空港の機能強化に関する取組方針について

	■ 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会までに実現し得る主な技術的な方策	■ 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会以降の技術的な方策
羽田空港	<ul style="list-style-type: none"> ・滑走路処理能力の再検証 ・滑走路運用・飛行経路の見直し <p>【現状：約45万回】 ⇒年間+約4万回</p> <p>計+約4万回【1日約50便】</p>	<ul style="list-style-type: none"> （・滑走路の増設）
	<ul style="list-style-type: none"> ・管制機能の高度化 ・高速離脱誘導路の整備 ・夜間飛行制限の緩和 <p>【現状：約30万回】 ⇒年間+約2万回</p> <p>計+4万回+a【1日約50便】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既存滑走路の延長 ・滑走路の増設 <p>⇒年間+約16万回</p>
成田空港		
	合計 約83万回 （年間75万回+約8万回）【1日+約100便】	合計 約100万回 （年間約83万回+約16万回）【1日+約200便】

質問 都市の国際競争力の強化と、どう関連するのでしょうか。

- 「都心から近く」、「24時間オープンしている」という強みを持つ羽田空港の国際線が増便すると、企業誘致、投資にも追い風となり、国際競争力に大きく寄与すると考えられます。
- また、世界の都市総合ランキング2018において、交通・アクセス分野では、国内・国際線旅客数の着実な伸びなどがみられるところ、更なる国際競争力強化には羽田空港の国際線強化が欠かせません。



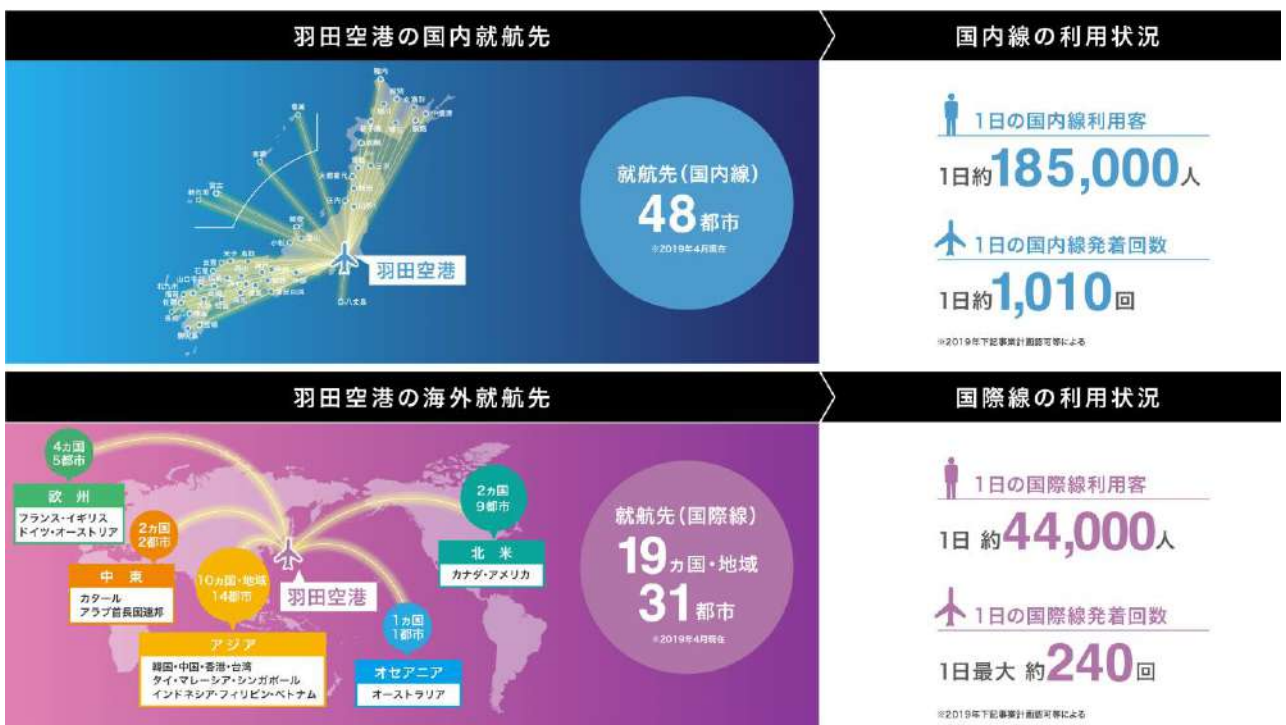
世界の大都市圏における主要空港と都心との距離

都市	空港名	都心からの距離
ロンドン	ヒースロー	24km
	ガトウィック	43km
	スタンステッド	51km
ニューヨーク	J. F. ケネディ	24km
	ニューアーク	25km
	ラガーディア	15km
パリ	シャルル・ド・ゴール	25km
	オルリー	14km
東京	羽田	15km
	成田	66km
ソウル	仁川	50km
	金浦	17km

質問 羽田空港の国際線増便は首都圏以外の地方にも良いことなのですか。

- 羽田空港は、地方と首都圏、そして世界をつなぐ大切な役割を果たしています。
- そのような重要な役割を担う羽田空港だからこそ、将来のために国際線の増便が必要になると考えています。

○ 国内外に豊富な路線を有する羽田空港は、首都圏と世界をつなぐだけでなく、羽田空港を通じて地方と世界もつないでいます。



○ 地方が厳しい人口減少社会を迎えている状況だからこそ、羽田空港を軸としたネットワークを通じ、アジア諸外国等の成長力を地方のすみずみに効率良く届け、また、地方から海外への渡航を便利にしていくことは大切なことと考えています。

○ なお、少し前までは、ビジネスや旅行で地方から海外に行かれる際に、国内の地方空港からソウル（仁川空港）などの近隣国の空港を経由して、海外に行かれる方が増加する傾向がみられていました。

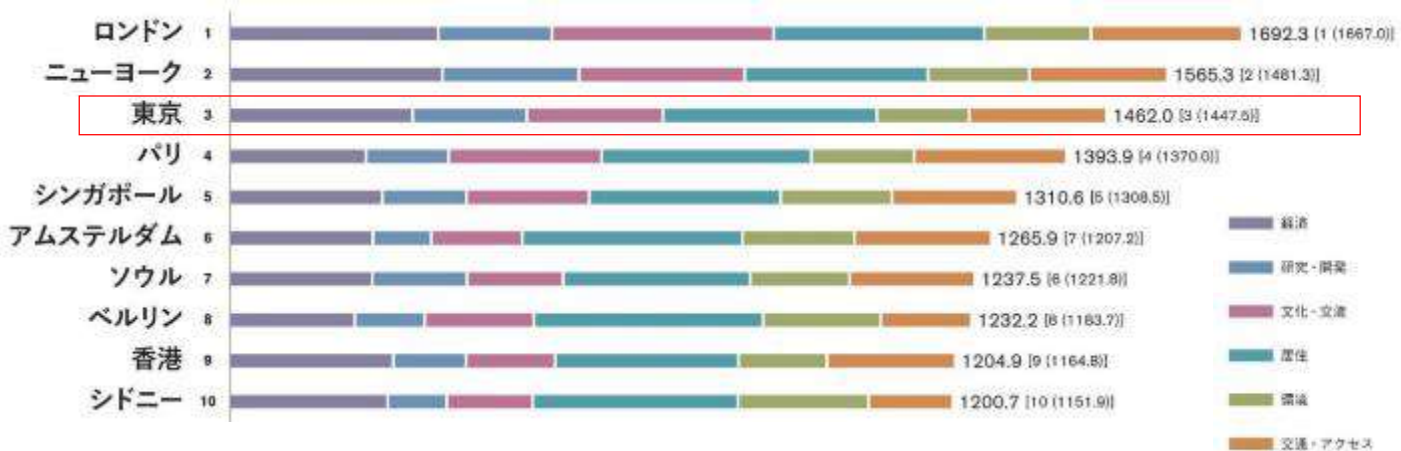
○ 2014年夏より、羽田空港の国際線ネットワークを大幅に強化したところ、仁川空港の旅客が減り、羽田空港の旅客が増える状況が発生しています。このようなことから、羽田空港の地方と世界を効率的につなぐことの重要性を実感しているところで

- (一財) 森記念財団 都市戦略研究所「世界の都市総合ランキング2018」では、より魅力的でクリエイティブな人々や企業を世界中から惹きつける都市の“磁力”こそが「都市の総合力」であるとして、世界の44都市について、「経済」「研究・開発」「文化・交流」「居住」「環境」「交通・アクセス」の6分野から評価しています。
- 東京は、ロンドン、ニューヨークに次ぐ、世界総合第3位とされました。
- 東京は、文化・交流、研究・開発分野の面で高い評価を得ており、また交通・アクセス分野で2017年の6位から5位と順位を上げています。
- 国内・国際線旅客数の着実な伸びなどにより、交通・アクセス分野の順位が上がったことから、国際線の便数をさらに増やすことで、都市全体の競争力が強化されることが期待されます。

世界の都市総合ランキング対象都市（44都市）



総合ランキング（トップ10）

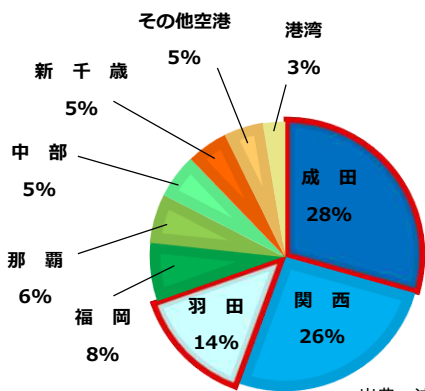


出典：森記念財団 都市戦略研究所「世界の都市総合ランキング2018」

質問 首都圏空港以外の空港も国際線を増便する必要があるのではないのでしょうか。

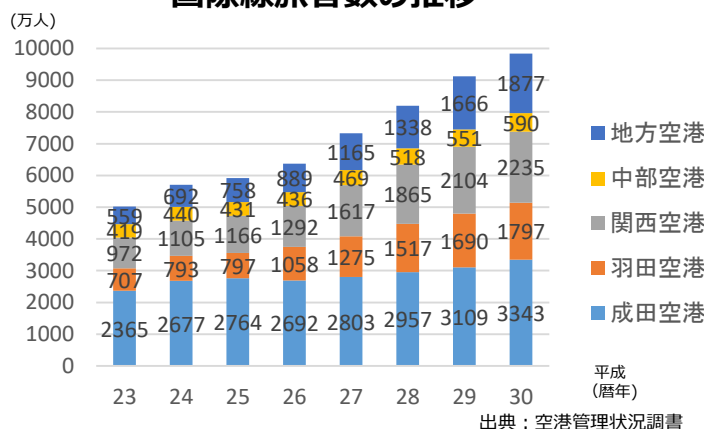
- 訪日外国人の空港利用者数等は、首都圏空港のみならず地方の主要空港でも伸びています。今後も、このような空港も活用しながら、航空ネットワーク全体で効率良く、訪日外国人の増加等に対応してまいります。

2018年 入国外国人港別割合



出典：法務省 出入国管理統計

国際線旅客数の推移



出典：空港管理状況調査

関西国際空港

LCC専用ターミナルの整備



- 第2ターミナル(T2)(国内線)
- ・ 2012年10月28日供用開始
 - ・ 国内線専用

- 第2ターミナル(T2)(国際線)
- ・ 2017年1月28日供用開始
 - ・ 国際線専用

中部国際空港

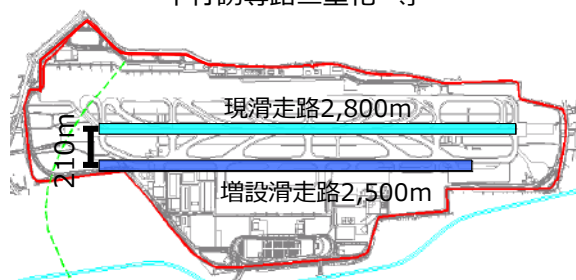
LCC専用ターミナルの整備

- 第2ターミナル(T2)
- ・ 2019年9月20日供用開始



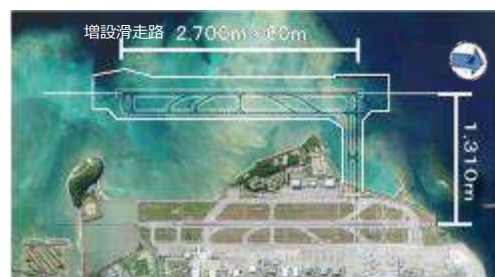
福岡空港

- ・ 滑走路増設事業 (供用開始予定日：2025年3月末)
- ・ 平行誘導路二重化 等



那覇空港

- ・ 滑走路増設事業 (供用開始予定日：2020年3月末)
- ・ 航空機駐機場の増設 等



質問 羽田空港の国際線増便は空港周辺地域にも良い影響はありますか。

- 羽田空港を利用して日本を訪れる外国人観光客の数が増加する中、空港周辺地域を訪れる人も多く、今後、羽田空港の更なる国際化に伴い、地域の発展が期待されます。
- 羽田空港の国際線の便数が増えるにつれ、羽田空港を利用して日本を訪れる外国人観光客の数も増えていきます。
- こうした外国人観光客の中には大田区、品川区、川崎市などの空港周辺地域を訪れる人も多く、例えば、商店街で買い物をする人、銭湯を楽しむ人なども見受けられます。空港周辺の地域においては、地域の方々を含め官・民が一体となって、羽田空港を核とした外国人観光客誘致のための取り組み、まちづくり等が進められています。
- また、羽田空港の周辺地域では、現在、国際拠点空港としての機能を活用して、先端医療技術とものづくり技術との医工連携の推進、国際的な研究・交流・商取引を促進するための土地利用、周辺のまちづくりと一体となった戦略的な都市・交通インフラ整備等が進められようとしています。
- 特に、空港跡地においては、第1ゾーンでは、2017年5月に「新産業創造・発信拠点」の整備・運営を行う民間事業者が選定され、2019年8月に施設名称が「HANEDA INNOVATION CITY」に決定されました。先端産業と文化産業を2軸に、研究開発施設、先端医療研究センター、コンベンション施設やグルメ、日本文化、ライブイベントといった体験も可能な複合施設が整備される予定です。また、第2ゾーンでは、2016年6月に宿泊施設等の整備・運営を行う民間事業者が選定されました。日本最大級のエアポートホテルと商業施設、温浴施設、バスターミナル等の複合施設が整備される予定です。



周辺まちづくりの推進

- 今後も、観光、産業、国際交流等の観点から羽田空港と地域との連携を更に発展させ、地域の持続可能な発展や、世界から資金・人材・企業等を集める国際的ビジネス拠点の形成等に貢献していく考えです。